



映画雑感3

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼まず「パンクーパーの朝日」。第二次大戦前にカナダの野球リーグで活躍した日系二世の野球チーム「朝日軍」の実話に基づくお話です。日本人街を舞台に、現地の人たちと溶け合おうとしない移民一世と二世との確執や抜きがたい人種差別など、閉塞感の中で若い選手たちは俊敏さと知恵を武器に体格に優れた現地チームを打ち破ります。やがて現地の人たちにも受け入れられて人気チームになるのです

が、すべては第二次大戦勃発によって崩れ去ります。次第に強くなることで見えてきた光明が突然断ち切られる理不尽。事実のみが持つ重い現実が若い俳優陣の熱演で甦ります。

▼春に女生徒たちが主役の映画を続けて見ました。「くちびるに歌を」は離島に赴任してきた元有名ピアノリストの音楽教師と女生徒たちが合唱コンクールで優勝を目指します。中学生たちのまつすぐな熱意が、不幸な事故で音楽と向き合えなくなっていた教師を再生させていきます。「幕が上がる」は演劇部が全国コンクールに挑戦する話。元学生演劇の女王とした鳴らした女教師が女生徒たちを鍛え直しますが、コンクールを前に教師は舞台上に復帰するために学校を去り、生徒たちが教え

を胸に自主的に奮闘を続けます。平田オリザの青春小説を「踊る大捜査線」の本広克行監督が映画化。人気グループの桃色クローバーzの5人を主役に抜擢し、女教師役には学生演劇出身でカンヌで主演女優賞を獲得した黒木華を起用して、躍動感と緊張感のある爽快感な青春映画に仕上げました。

▼そして「ソロモンの偽証」前・後編。中学校を舞台に、屋上から転落した男子生徒の死の真相を、学校裁判という仕掛けで探っていきます。ここでも中学生を演じる若い俳優たちが好演、中でも映画初主演の女子生徒の清冽な存在感が光ります。

▼思いがけない収穫は「ビリギャル」でした。劣等生が慶應を目指すという実話が原作です

が、教育の抱える本質的な問題や小論文の指導の際に指摘される新聞記事の捉え方など、思わずうならされるリアリティがありました。

▼河瀬直美監督の「あん」は期待を裏切らない出来栄え。小さなドラ焼き屋を舞台に、突然現れた老女があんづくりの腕を買われて雇われ、ドラ焼きは人気を集めますが、やがて彼女が元ハンセン病患者と分かり客は激減します。心に傷を抱えた店主と家庭に居場所のない常連客の中学生は元ハンセン病施設を訪れ、行き場のない患者たちの姿を通じて生きる意味を見出していきます。老女役の樹木希林の怪演と実の孫である中学生の初々しい演技、そして店主役の永瀬正敏の抑えた演技が見事なハーモニーを醸し出しています。